78　姥捨山（イ）（柴折り・難題）

昔の年寄りはよ、これチテー話（伝え話）であるよ。六十歳になったらよ、もう年寄りは役に立たないといって、息子がおんぶして、このアムトゥンシタ（堤の下）というところに捨てに行きよったって。

そしてまた、最初、連れて行く時によ、行く時に、やっぱし親は、子どもが捨てに行くけれども、親は、子の思いは人情があるでしょう、親というもの。だから、この親が、行く時に枝を折ってね、道の途中、アムトゥンシタに行く途中、枝を折ってね。この枝を折るのは何のために枝を折るかといえば、またこの、自分の息子がおうちに帰る時に、道に迷わないように、道の何というか、

「この枝が折れているのを見て、おうちには帰りなさい」というのさ、息子に。

親がやっぱしこのぐらい子どものことを思うさ、息子のことを思って。であったから、これもやるし。

また一つは、王様から、

「雄鳥の卵を持ってきなさい」と言ったから、

「やっぱしあなたも男だから、あなたも卵を産めるか」と返事返したさ。返したから、もうこれはこっちに負けているさ。これもやるし。

また、

「綱を灰で、灰で綱を編んで、この灰の綱を持ってきなさい」と、この命令がきたからやん。またこの子どもには、この息子には命令がきたから心配しているさ。考えても、灰で綱を綯うということも、これは考えても考えれない。どうしてもできないとこの息子が心配しているさ。だから、もうお父さんだったらわかるかもと思って、お父さんのところに聞きに行ったから、

「これより簡単なことはないのに、こんな簡単なの心配するねえ」と言ったから、

「綱を綯って、綱を編んでね、藁で綱を作って、これを焼きなさい。焼いたらすぐこの形がやん、灰で綱綯っている形がちゃんとなるからこれあげなさい」と言ったから、これから親は大事になったて。年寄りは大事になった。やっぱし親の考えが上。

字真栄平　喜納カメ

類話

字武富　大城トミ、長嶺京子
字北波平　大城正太郎
字賀数　新田繁一
字豊原　国吉マツ
字真栄里　比嘉スエ、伊敷三郎、玉城亀雄
字真栄平　喜納サト、名嘉真朝昌
字新垣　宮里栄吉
字伊敷　新垣キク
字福地　川門カメ
字伊原　上原孝助、玉城ハル